JAC北九だより NO.37 (平成19年第5号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

来年の全国支部懇、北九州で開催

支部会員の一致協力で成功へ

この9月9日、上高地の山研(山岳研究所)で開催された日本山岳会全国支部長会議に出席した大庭 支部長は、「来年の全国支部懇談会は、北九州支部の担当で開催してほしいという要請があった」と発表 した。支部発足8年目にして初めての経験であり、来年10月を目標に、今から計画を立て、支部会員、 会友全員が一致協力して成功させましょう。

幼い外交官、すばらしい国際交流を展開 モンゴルの日中韓子供キャンプで実現

報 告 No.11977 溝 部 忠 増

果てしなく広がる内蒙古高原の大草原 - 、高度千数百メートルの大地、360度にわたって限りなくのびる。この地球の一角にあるモンゴルでこの夏遊んできた。

8月1日から日本と、中国、韓国の三カ国合同の国際交流子供キャンプに同行、夜空いっぱいに広がるすばらしい星座、しかし、深夜のキャンプでは、テントをたたきつけるような大雨が降り注ぎ、どでかい稲妻に体も震えるほどでした。昼間は、17度~27度の 好天気で、緯度は、稚内並み、毎日、10数キロを行進する足もはずみました。

参加した子供たちは、福岡県を中心に、熊本、神奈川、 北海道など小学5年生から中学・高校生まで、それぞれ三 カ国入り混じって7、8人の班編成をし、寝食を共にし ました。お互い言葉も分からない中で、目と手で語り合 い、食事も一緒に作り、同じように、同じ物を食べ、昼 間は、遊戯やダンス、スポーツで交歓を重ねました。

私達を受け入れてくれた北京の宗慶齢基金会(育英・社会福祉の組織)の設営・食料・遊戯などが満点で、わずか11日間のキャンプ暮らしでしたが、別れ際に互いに抱擁し、涙で顔はぐしゃぐしゃ。大人の社会では体験できない素晴しい国際交流を展開、みんな小さな外交官として国際社会に巣立って行く21世紀の少年、少女に成長して引きあげてきました。

この企画を主催した日本側は、福岡にあるNPO法人「遊び塾ありギリス」。教科書も、黒板も、教師もいない学習塾、子供たちの心身の発達を目指す小さな勉強会。これまで中国はもちろん、ネパール、ベトナムなど、国際交流キ



ャンプを重ねてきた。モンゴルでは、16回に及び、今度が 最後の機会だというので、私は特にメンバーに加えても らった。出発前に想像していた通り、評価以上の成果を あげて帰国した。文部省や県教委のかたい頭の先生たち に、この課外活動ぶりを見てもらいたいと思いました。

※福岡空港に帰国した子供たちを出迎えた保護者たちは、 見事に日焼けしたわが子の姿に目を見張り、自立したたくま しい姿に改めて着目していました。きっと、子供たちは明日 の学び方、生き方に、表現しつきない、収穫を持ちかえって 来たことでしょう。今年はとくに日中国交正常化35周年。 両国の交流を深めるさまざまな事業が各地で繰り広げられて いる中で、この子供キャンプは実に意義深いものであった。

※振り返ってみると、ありギリスが交流キャンプに力を入れ始めたのは、福岡教育大山岳部による現場教師の登山隊が、 天山山脈のポゴタ峰(博克達峰)に登山したあと、現地で 新彊ウイグル自治区の関係者と話し合った際、交流の子供キャンプの話がまとまったのが始まり。さっそくその翌年、福岡を中心とするメンバーが天山で第1回のキャンプを実現した。言語も分からず、会話もできない子供達が、仲良く合同キャンプに成功、学校では想像できない体験学習を実現。心身の発達はもちろん、子供達に両国の歴史と伝統や平和を学ぶ最大のチャンスになった。その後ありギリスを組織、今日に及んでいる。

合同キャンプに参加した薬剤師のスタッフ(25)は、 「子供達と楽しく遊ぶことができ、国際交流の輪を広げた。私自身にとっても大きな人間としての成長の機会だったと思う」と日焼けした笑顔で語っていた。

※このありギリスは、その活動ぶりが、高く評価されて 近年、朝日新聞社主催の「朝日のびのび教育賞」を受け ている。

※すばらしいモンゴルの旅を本当に楽しむことが出来た。 最高齢 76 歳の私をおもんばかって、スタッフや隊員達が、 いろいろと手助けをしてくれた。出発直前、福智山・宝 満山で2日間のトレーニングを重ねていたため、お陰様 で事故もなく無事引き揚げてきた。こんどの旅は、こ の10数年、世界各国を巡っている私にとって、最高の旅 となった。

《旅 の 余 話》 キャンプ地は、北京から空路 1時間飛んだ内蒙古の首都・フフホト(呼和浩特)から 車で数時間走った大草原のど真中。風力発電の設備の工事中で、プロペラをつけた塔が100基余り立ち並んでいた。 水力、石炭火力につぐ第3の発電所を目指しているところだった。

▲フフホトの郊外に人口5万余の街づくりが進んでいた、 広い道路を挟んで両側に商店街が広がっていた。日用雑貨 のほとんどが求められるように整ってきている。このあた りは、5年前まで何もないただ広い草原だったそうだ。そ こにわずか数年間で軒並みが立ち並んだそうで、たくまし いモンゴルの勢いを見せられた感じだった。ホテルも次々 にできているが、私達が利用したところは食事のできるレ ストランのみで、宿泊設備はこれからだという。

▲オリンピックを1年後に控えた北京では、すさまじい交通渋滞に巻き込まれた。広い国道は上下とも4車線、さらに両側に2車線ずつ加わって計12車線に、車の波がベルトように果てしなく続いていた。まだ高速道路をはじめ、多くの道路づくりが急ピッチに進められているが、オリンピックのとき交通整理はうまくできるだろうか。さらに、ホテル、アパート、事務所ビルなども建設ラッシュ。この面でも東京オリンピックのあった1964年の日本の騒ぎと同じものを見る感じだった。中国は、国家の名誉と誇りをかけているというが、果たして世界に評価される五輪祭典となるかどうか。

月例山行報告白馬岳~朝日岳縦走大雪渓で落石事故を目撃

No.13810 西村俊二 · No.13520 西村信子

8月10日~14日の8月山行に夫婦で参加しましたので、以下報告します。参加者8名。北アルプス山行を前に8月4日(土)、飯豊連峰縦走帰りの原さん、森本さんを除いて6名で九重(大曲~星生山~御池~中岳~天狗ヶ城~北千里浜~スガモリ越~大曲)でトレーニングをして花の名山「白馬岳」に臨みました。

1日目、8月10日(金)、晴れ 小倉7:36→白馬15:50→猿倉16:25 →白馬尻小屋17:40

新幹線改札口にて関口さん、坂本さん、大木さん、西村2人の計5名が 集合。すでに博多より乗車の山田さんと合流。新山口より原さん、森本 さんが乗り込んで今回の参加メンバー8人が揃う。名古屋で「しなの9号」に乗り換え松本を目指すが、塩尻でこの暑さでオーバーヒートしたのか、前の列車から煙が出て約40~50分の足止め。これからの山行に一瞬不安がよぎる。松本で待っていた大糸線の電車に走って乗り込み、何とか計画通り白馬に到着。予約のタクシーに乗り、警察署へ登山届けを提出して猿倉へ。いよいよ登山の始まりです。

今日の宿の白馬尻山荘まで信州の 空気を味わいながらゆっくり歩き、 無事到着。「おつかれさん! よう こそ大雪渓へ」と書かれた大きな石 の看板の前にはサンカヨウ、キヌガ



白馬大雪渓を登る

サソウが咲いていました。食事も美味しくいただき、明日からに備え、 早めの就寝とする。

.....

2日目、8月11日(土)、晴れ 白馬尻小屋6:00→葱平7:45→白馬 岳頂上宿舎11:15→白馬山荘12:00

早くに眼が覚め、カメラを手に外へ。 日の出前の朝焼けがきれい! 夜は星 も輝いていました。

5時、朝食。6時出発で今日の一 日の始まりです。大雪渓ケルンのと ころでアイゼンを付けているグルー



全員おそろいのTシャツで

プもいたが、我々は雪の感触を楽し み、7:15装着。葱平で着脱。「もう そろそろ小雪渓が・・・」と言うが、 それらしき雪渓がないので通りかか ったグリーンパトロールの方に聞く と「5日前にコース変更し、小雪渓 は通りません」とのことでした。

途中、落石があり雪渓上を石が跳 ねるように転がるのを目撃。花を観 ながら登っていると怪我人が。我々 が小屋を出発した時に前を歩かれて いたツアーの方で、頭に巻いていた タオルは血に染まり、着ていた白の Tシャツも赤く、意識はありました が顔は土色・・・・。先ほどすれ 違ったパトロールの方も戻って来ら れ、上の山荘に常駐している診療所 の方も急いで怪我人の元へ。

我々が村営の頂上宿舎に着くころ ガスり始め、大雪渓が見えなくなり ました。ヘリが救助に向かうが視界 が悪く、1回、2回と挑戦するが駄 目。3回目、下から発炎筒が上がり、 ほんの一瞬、ガスが晴れたときに救 出劇が始まりました。ホバーリング し、ヘリから隊員が出てきて抱え上 げ、機中へ。良かったぁ~~。思わ ず胸を撫で下ろしました。

初見のウルップソウにも出会え、白 馬山荘12時着。ベンチで剱岳などの 展望を楽しみながら昼食。その後、 部屋でゆっくり休憩。夕食後白馬岳 に登るがガスで視界は悪く、松沢貞 逸顕彰碑にお参りして下山にかかる。 先頭を歩いていた山田さんが「あっ、 雷鳥」、急いでそっと行く。1羽が散 歩に出ていてラッキー! 展望レス トランで今日の出来事を話しながら、 怪我も無く無事に雪渓を登れたこと に乾杯!

3日目、8月12日(日)、晴れ 白馬山荘5:30→白馬岳(6:00~6: 10) →三国境 (6:45~7:00) →コ ーヒータイム→雪倉避難小屋9:40→ 雪倉岳(10:10~11:15昼食)→分岐 (14:20~14:30)→朝日小屋16:30

山荘の朝は早い。空気が澄んでい る。今日もいい天気!剱岳・毛勝三 山が目の前。槍ヶ岳も望める。 昨夜、 皆で買い求めたお揃いのTシャツを 着て5:30出発。逆光だがまずは山頂 で記念撮影。富士山、八ヶ岳連峰も 見えている。三国境を過ぎ、あまり に良いお天気・眺めに関口リーダー よりコーヒータイムの提案。真っ青 な空! お花もたくさん! きれい! ミヤマリンドウも「私はここにいる のよ」と象徴するかのように花弁を 開いて咲いている。雪倉岳にて早め の昼食。これからの長い道のりを思 うともう少し早く歩かねば、と思う が前半ゆっくりしすぎて身体が鈍っ ているようだ。ガレ場のツバメ岩を 過ぎ、水平道を進むが道は水平では なかった・・・・

木道もあり、結構なアップ・ダウ ンありでようやく朝日小屋に到着。 小屋前のテントが色とりどりで賑や か。宿泊手続きを済ませ、とりあえ ずベンチで無事到着を祝して乾杯!

夕食はオーナーの清水まゆみさん より挨拶があり、「心を込めて作って います。たくさん食べて又明日の活 力としてください」とのお言葉があ りました。小屋周辺のお花のビデオ 放映もあり、食事も大変美味しくい ただきました。

4日目、8月13日 (月)、晴れ 朝日小屋5:30→朝日岳(6:00~6: 10) →吹上のコル (7:25~7:35) →五輪の森9:25→花園三角点10:15 →白高地沢出合(11:40~12:25昼 食)→瀬戸川橋14:00→兵間の平(1 5・05~15:15) →蓮華の森(15:42 ~15:50)→蓮華温泉ロッジ16:20

朝食時も清水さんよりそれぞれのコ ースについての危険箇所や注意点な どのお話があり、蓮華温泉方面は木 道が滑りやすいので気をつけるよう にとのことでした。

今日も素晴らしいお天気!昨夜のミ ィーティングでS・Lの山田さんより 「昨日は花を見ながらのゆっくり歩 きだったが、今日のコースも長いの でお花はほどほどにして、気をから げて歩きましょう」とのことで気合 を入れなおす (?)。清水さんに見送 られて、朝日岳へと出発。剱岳とも お別れ。

吹上のコルでは昨日より時々顔を 合わせていた親子連れともお別れ。 我々は五輪尾根へ。親子連れは栂海 新道を経て親不知・子不知へと行く そうだ。テントを担いで。子供も自

分の荷物は背負っている。お母さん の使い込んだ大型ザック、ご夫婦は 学生時代ワンゲル部にいたとのこと。 小学校4年生のかわいい女の子。未 来の田部井淳子さんの出現か?

湿生植物が咲き、長い木道が敷か れ、下りの長~~い道のり。花園三 角点を過ぎ、喉の渇きに耐えながら 歩き、白高地沢出合で昼食。仮設の 橋を一人ずつ渡り、登り返す。上り が終わると、瀬戸川への下りが始ま る。鉄製の瀬戸川橋を通過。橋を渡 ると再び上りにかかる。この上りが 結構きつい。とにかく水分の補給を 切らさないように注意しながら、ゆ っくりと歩みを進める。緩やかであ るが、ザックが肩に食い込みこたえ る。兵間の平でやっと笑顔。またま た登り返しのある道を進み、ようや く蓮華温泉ロッジへ。皆様、お疲れ 様でした。一先ず、ビールで無事到 着を祝して乾杯!! 久し振りの湯 に浸かり、汗を流しました。極楽、 極楽!!

5日目、8月14日(火)、晴れ

男性は4時起きでロッジより歩い て5分ほどの野天風呂の「黄金の湯」 へ。透明でとても気持ちのよい風呂 だったとのこと。後から見に行った が登山道のすぐ横。入る勇気は無く、 浴槽の写真だけ撮って帰る。さまざ まな思い出を胸に蓮華温泉を後にし て7時発のバスで平岩へ。南小谷~ 松本~名古屋と乗り継ぎ、列車のト ラブルもなく、無事に定刻通りに小 倉に17時39分到着しました。

白馬岳は初めてでした。お天気に も恵まれ、三大雪渓の一つを歩き、 たくさんのお花に出会え、大満足の 山行でした。また、落石の怖さ、救 助活動の様子を見まして自然、山に 対する取り組みを考えさせられる今 回の山旅でした。

2週間前に同行程で歩かれた横山 さん達グループはガスって落石の危 険性があるとのことで、大雪渓を目 前で止め、コース変更をされ、白馬 大池より三国境に出て後は同じコー スだったとのこと。勇気ある撤退だ ったと思います。山は逃げません。 また挑戦してください。

最後に関口C・L、山田S・L、同行 の皆様、有難うございました。ほと んどの高山植物を見ることが出来ま したので、名前の列記は割愛します。

参加者

C·L 13643 関口 興洋 S·L 13992 山田 武史 医療 11990 原 広美 会計 13520 西村 信子 13810 西村 俊二 北九266 大木 康子 北九356 坂本 勝喜 北九389 森本 信子

飯豊山行記

登山の原点を感じる静かな山歩き

11990 原 広 美



飯豊山地の主稜、門内岳(1887m) 山頂で

日 程 平成19年7月25日(水) ~29日(日) 4泊5日

<登山ルート>

1日目 7/26 小白布沢登山口~横 峰〜剣が峰〜三国岳避難小屋〜 切。合小屋~飯豊本山小屋

2日目7/27 飯豊本山小屋~御西小 屋~大日岳往復~烏帽子岳~梅花皮 小屋~北股岳~門 内小屋

3日目7/28 門内小屋~扇の地神~ 地神山~地神北峰~丸森尾根~夫婦 清水~飯豊山荘

<行 程>

7/25 新下関7:13発、東京、郡 山、会津若松、山都経由川入18:00 着。交通の便が悪くタクシーで民宿

「村杉荘」まで行く。天気予報では 明日も雨、心配しながら早々と眠りに 着く。

7/26 小雨の中 宿の車で小白布 沢登山口まで送ってもらう。途中小 熊に出会うがすぐ藪の中に消えた。 5:00登山口出発、子熊の親がいて は大変、声を出しながら沢を数回渡 ると急登が始まる。蒸し暑さと16キ ロのザックの重みがこたえる。2時 間登ると地蔵山のトラバースルート に冷たく美味しい水場がある。ザッ クを下ろし一休み、喉を潤してこれ から剣が峰へと向かう。思ったより 長い岩稜をよじ登っていく。9:20福 島, 新潟, 山形県の県境、三国岳避難 小屋に着く。小屋の管理人さんが他 の登山客がルートを確認しないで「弥

平四郎」方面に間違えて行ったこと に厳しく注意していた。登山道が解 りにくい場所なので私共も念を入れ て確認する。今夜の宿'飯豊山本山 小屋'を目指して切合小屋、ぞうり 塚へと進む。昔は `飯豊詣で' で賑 わった山。ここでぞうりを履き替え たので塚ができたとの事でした。展 望は良く遠くに目をやると、時折ガ スの切れ間から谷筋に残る雪渓が見 えてくる。

ヒナウスユキソウ、ニッコウキス ゲ、コバイケイソウ、ヒメサユリな どお花畑の中を御秘所へと向かうと 何やら石垣のようなものが見える。 やっと本山小屋かと期待すると'一 の王子'で祠が祭ってある。5分く らい下って水を補給、本山小屋へ向 かう14:20着。すぐ横に飯豊神社が あるので三日間の無事を祈ってお参 りする。

7/27 4時37分蔵王連峰からゆっ くり朝日が昇る。すばらしい一日の 始まりに心がはずむ。親切にして頂 いた小屋のご主人に別れを告げ5:10 御西小屋へと向かう。少し前には薄 いピンクのヒメサユリが満開で沢山 の登山者で賑わったそうです。今は 登山道脇に遅咲きのユリが数本残っ ているだけ。花を見られただけでも ラッキーでした。御西小屋7:00着。 小屋の横にザックをデポして大日岳 へ向かう。静かな山頂からは御西岳、 烏帽子岳、北股岳など飯豊連峰の大 パノラマを満喫できた。南側には牛 首山があるオンベ松尾根が長く伸び ており雄大さを感じる。初めて見る 薄紫の小さな'イイデリンドウ'を 写真に収めながら10:00御西小屋へ 戻る。これから「御手洗の池」まで、 いくつもの雪渓のトラバースや途中 登山道が無くなるとの情報があった 難所を歩くことになる。残雪が多く バランスを崩さないよう慎重に渡っ て行った。烏帽子岳まで頑張ろうと 声を掛け合いながら登るとそこは二 セ鳥帽子(これは私が勝ってにつけ た)、烏帽子岳は更に3つピークを越 えないといけない。日照りと暑さで 喉が渇いて仕方がない。13:00昼食 を済ませると本日の宿泊予定の「梅 花皮小屋」へと急ぐ。

14時着、小屋は石転び沢からも登 ってくる三叉路にある為混雑が予想 された。その通り70名が宿泊とのこ とだった。次の門内小屋まで行けば ゆっくり泊まれるので、水2潟補給 後2時間の行程で門内小屋まで行く ことにした。北股岳はかなり登りご たえがあるが、これを過ぎるとニッ コウキスゲが群生しているなだらか なギルダ原に出る。門内小屋16:00 着。本日の歩行時間11時間。たくさ んのピークを越えてよく歩いた。ま だ日暮れまで時間があるので外で夕 食の準備にかかる。ちなみに今夜は '寿司太郎ほか'。何を食べても美味 しい。

7/28 早朝、快晴だが風が強く どうやら雨の気配。早く下山しよう と5:15出発。頼母木小屋、杁 差 岳を横目で眺め地神北峰より丸森尾 根を下る。1400mの標高差を下るが 木の根っこや崖の連続で足場が悪く

気が抜けない。11:30天狗平に下山、 同時に大雨だった。「飯豊山荘」で汗 を流し岩魚の塩焼きとビール、名物 の'かいらぎ栃そば'を頂き3日間 の楽しかった山行が終わった。

7/29 飯豊山荘前のバス停を9:00 出発、小国、米沢、東京、19:30下 関着。往復のアプローチが長く感じ られた。飯豊山は交通の便が悪く又 情報が少ないことに苦労したが、幸 い関口事務局長が3年前同じルート を歩かれたのでその時の資料を頂き 小屋の様子、気温、危険箇所など随 分参考になりました。

アルプスとは違った静かな山歩き、 避難小屋はこじんまりとした小さな 小屋ですがきれいに整備されている。 全ての小屋は自炊となっており管理 人も厳しく登山の原点を感じました。 また自然保護の為、テントは避け小 屋に泊まるよう指導していました。

<参加者:中村昭彦13991 森本信 子北九389 原 広美11990>

2007年9月5日

∥北九州支部登山者必須条項

遭難対策委員会

国内の登山者は現在660万人といわれる。平成18年度の遭難者は1853人 となっている。あってはならない事ではあるが、何時わが身に振りかかってく るか判らない。そこで登山の心構えとして、次の項目を掲げることにしたい。 会員の皆さんが必ず実行すべきものとして心得ていただきたいことである。

記

- 1. 傷害保険は必ずかけること。 (山行のリーダーは参加者に必ず確認すること)
- 2. 単独行はできるだけ避ける。
- 3. 登山に際しては、支部山行・個人山行を問わず家族など身内に対し、目的 地、行程、同行者、帰着時刻(予定)を記入した登山計画書を作成し、予め 知らせておく。

なお、支部山行の場合は、従来通り、登山計画書を事務局へ提出する。

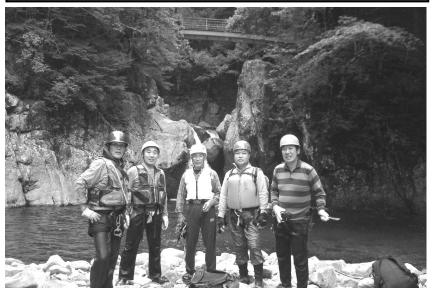
4. 入山時(近隣の山を除く)には、登山届け、登山計画書等を地元の管理機 関へ提出し、あるいは受付箱があればそれに投函する。

山奥の林道に駐車する場合、不審車扱いを避けるために連絡先メモをフロ ントガラスの内側に張り外から見えるようにしておくことをお勧めする。

5. 山中では、携帯電話の通話可能な範囲はごく限られるので、信頼度が低い ことを十分に認識して行動すること。冬季の低温下では電池の消耗が激しい のでスイッチはOFFにし保温のため身体に密着させて携行する。必要な場合 のみONにすることをお勧めする。以上

月例山行報告 島根県西中国山地(国定公園) 裏匹見峡 沢登り

内 藤 正 美 No. 14079



裏匹見峡にて 左から原野、内藤、細川、武永、野島の各氏 撮影 原 広美

秋は紅葉 春は新緑で賑わう島 根県益田市「西中国山地 裏匹見 峡」において9月9日(重陽の節 句)月例山行が実施された。

人数がそろわなかったため前日 からのキャンプは中止、日帰りと なった。

細川さんをリーダーに原さん、 野島さん、原野さん、武永さん、 内藤の6人は8時30分裏匹見キ ャンプ場駐車場に集合。早速、底 がフェルトの沢靴、ライフジャケ ト、ヘルメット、ハーネス、カラ ビナそしてビニールで包んだ着替 えと行動食をザックに詰めいざ沢 へと向かう。

あいにく曇天のうえ、早朝なの で「渓谷の水は冷たいだろうな」 と思いながら泳ぎ始める。ライフ ジャケットを装着しているせいか、 あまり冷たさを感じない。ほっと した。2日前にかなり雨が降った とのことで、水量があり流れがき つく、小さな滝も登りにくい。い きなり高さ3mくらいの手や足が かけにくい岩に遭遇、2番手に行 ったものがやっとの思いで上がり

ついたと思うと滝つぼへ 'ドボン '心配したが自力で這い上がり皆 でザイルを渡してこちらへ引っ張 った。3番手も難儀している。無 理をすまいと他の3名はUターン して左岸を迂回しながら上流へと 進む。



沢登りをする一行

難しいのは最初だけで後は気持 ちのいい沢を歩いたり、又足の届 かない深いところは泳いだり、ど んなことがあっても沈没しないの がいい。肩から上部は常に浮いて

昼食後、リーダーから徒渉の講 習を受ける。ザイルの扱いや人数 の少ないときの確保など実地研修。



川の中を泳いで進む

皆真剣に聞いていた。

細川さんありがとうございまし た。忘れないように繰り返し講習 会を開いて欲しい。道具をしまっ て終了後、赤い橋のある永田淵ま で行き、14:30終了。遡行時間4 時間、滝の真下まで泳いで行こう と必死で頑張ったが流れが強く負 けてしまう。残念。

この沢は大きな沢ですが、キャ ンプ場より上は民家はなく、住人 は熊だけで水質はすこぶる良い。 夏の暑い時期は沢が一番! 来 年は皆さん参加されてはいかがで すか。童心に帰り楽しいですよ。

匹見峡へは山口からは1時間半 で行けます。又関門トンネルを出 て下関IC~六日市IC~七日市

> ~高尻経由2時間 30分です。来年 は支流の沢をチャ レンジしたいと思 っています。

野島さん私の根 性の悪いザイルを 鍛え直してもらい ありがとうござい ました。

参加者

L 細 川 功 (12364) 野 島 豊 (13527) 藤 正 美(14079) 内 幸 雄(14080) 原 広 美 (11990) 9項原 武 永 計 介(入会申請中)

押戸石の丘(845.1m)とシュメール文字

No.14264 丹 下

阿蘇山行の帰りに寄り道をする 場所に「押戸石の丘」があります。 この丘には柱状列石があり最大の岩 にはシュメール文字が刻まれてお り、女神と解読されるものがあるそ うです。

シュメールとは、紀元前3世紀頃、 メソポタミア地方で栄えた国で 楔 形文字を使っており、これがシ ュメール文字です。

この丘へは、阿蘇から212号線 を南小国へ向かい、第一赤馬場橋を 左折、南小国西部農免道路に入り、

少し先の押戸石への標識を左折し、 狭い未舗装の農道の奥に駐車スペー スがあり一登りで丘に至る。

阿蘇高森の清栄山にもシュメール文 字があり太陽、月、星、海など航海 に関わる文字が解読されています。

ここの列石は、猪群山の環状列石 が自然に出来たものに対し、人の手 が加わっていると推定されておりま す。この列石を東へ辿るとモアイ像 のあるイースター島へ、西へ辿ると スコットランドのストーンヘンジ、ス トーンサークルに至り、夏至には巨 石の隙間から太陽が昇るそうで す。西に傾く太陽に手をかざし、 一心に祈っている若い女性に出会 った事もありました。私が初めて この丘に立った時「大いなる西部」 という映画を思い出しました。西 部の大平原で元船長の主人公が、 「こんな広い景色を見た事がある か」と聞かれ「海」と答える場面 です。

この山中を訪れたかも知れない シュメール人もこの瀬の本、大観 峰、阿蘇原野に広がる眺めに海を 思いシュメール文字を線刻したのでし ょうか。

阿蘇山行の際、ちょっと道草をし てこの丘に立ち、古代のロマンに思 いを馳せてはいかがでしょうか・・。

┃山の遭難その構図┃シリーズ②

No.13465 大楠益弘

『 道に迷ったら引き返せ 』

前回は未組織登山者の事故発生原因は、「道迷い」が 第一位であると述べた。以下青山千彰氏の同名の著書か ら引用し、私見をまじえて詳細を述べてみたい。

現在の登山人口は660万人余り、その内大規模山岳 団体会員63,500人。その他中小団体40,000人弱 で、計10万人余りが組織登山者となる。差し引き650 万人余りが未組織登山者となる。つまり66人に1人が 組織に入っているに過ぎないことになる。従って以下は 未組織登山者を対象とした分析が大勢となる。

まず遭難事故の態様は、道迷い32%、転落、滑落28. 4%、転倒11.4%、病気疲労12.4%である。ちなみ に道迷いについて見れば組織登山者は6%に過ぎず、未 組織登山者は35%となっている。

長時間迷った後で転倒、滑落、転落した場合は、後者 が事故の態様として集計される。実際にこの三つの態様 は道迷いが誘因となっていることが明らかな場合もあ り、道迷いの32%はもっと高率になる筈である。上述 の道迷いの両者の違いは何処から来るのか、組織登山者 には団体行動を重視し、現場、地形をよく知るリーダー がつくことがその大きな理由として上げられる。この利 点を未組織登山者に伝えることが出来るならば2005年 の事故者1684名中594名の道迷いの遭難者を減らす ことが可能であろう。

道迷いについて著者は二つの実験をしている。

一つ目は、200 m四方の同じ場所を周回する実験。 このコースでは同じ道を歩いていることに気づいた被験

者は非常に少ないことが判った。このことは、道に迷 ってしまって今まで歩いて来た道を反対方向に歩く場 合、つまり引き返す場合に今来た道と同じ道を戻って いることを認識できないことが多いことを示している。

二つ目は、地形図だけを渡してカーブが多く見晴ら しの悪い六甲山地の山を歩かせた場合、特徴のある地 形、自分で任意に設定した目印に対する思いこみが激 しい傾向があり、ほとんどの被験者が本来の進むべき 道を見失っている現象が見られた。

極論すれば、山で道に迷わないのは、そのコースが 一本道であり、要所に道標があり又地図で進行方向を 確認できる状況にあるからではないかと著者は分析し ている。

私自身積雪期、月明かりの大菩薩嶺山頂付近の樹林 帯で、さらにはホワイトアウト状態となった那須岳周 辺の漠たる雪原で見事にリング ワンデルング (注)を 演じたことがある。つまりスタートラインに完全に戻 ってしまった。幸いにしてこの恥ずかしい行動が同行 のメンバーにさとられずに済んだので今まで誰にも話 したことは無い。自分の未熟さ、過信のなせる技であ るのは当然のことであるが、上述の二つの実験によっ て、自分のような無能な者だけが起こす事故ではなく、 場合にによっては一般の登山者にもあり得る現象であ ることが分かったような気がする。

「道迷い」に関して著者は次のように結論する。す なわち迷ったら元来た道を場所が分かるまで引き返す こと、これしか無い。たとえ距離が遠くても登り直し ても、とにかく引き返すことが大原則である。

(注) ワンデルング〔ドイツ語Wanderung〕=野山を歩 き回ること。放浪。遍歴。

リング ワンデルング=環状彷徨。

「ふくおか地球温暖化防止シンポジウムinたがわ」から



「森から未来を見る」 C.W. ニコル氏が講演

No.13499 伊藤 久 次郎

8月6日(月)午後、福岡県地球温暖化防止活動推進センター〔(財)九州環境管理協会〕の主催で、「ふくおか地球温暖化防止シンポジウムinたがわ」が福岡県田川市の文化センターで開催され、その基調講演で、作家で探検家でもある英国人C.W.ニコル氏の「森から未来を見る」と題した話を聞くことが出来ましたので、その内容をご紹介します。

先ず、C. W. ニコル氏については、テレビのCMなどでおなじみですが、彼のプロフィールを。

1940年英国ウェールズ生まれ。17歳でカナダに渡り、その後、カナダ水産調査局北極生物研究家の技官として、海洋哺乳類の調査研究に当たる。1967年より2年間、エチオピア帝国政府野生動物保護省の猟区主任管理官に就任。シミエン山岳国立公園を創設し公園長を努める。1972年よりカナダ水産調査局淡水研究所の主任技官、また環境保護局の環境問題緊急対策官として、石油、化学薬品の流出事故などの処理に当たる。1980年長野県に居を定め、執筆活動を続けながら、1995年7月、日本国籍を取得。自ら荒れた森を購入し「アファンの森」と名付け、生態系の復活を試みる作業を20年間行う。2002年「財団法人 C. W. ニコル・アファンの森財団」を設立。2002年著書『風を見た少年』はアニメ化され、2005年英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章を賜る。

C. W. ニコル氏の講演「森から未来を見る」の内容

「わたしは、日本の武士道にあこがれ、空手を習うた め、今から40年前の1967年、初めて日本に来ました。 現在まで日本居住が一番長い。ですからウェールズでは、 最初の空手有段者です。そのウェールズは、田川と同じ ように炭坑地帯でした。しかし、炭坑が石油でつぶれて しまったため、私は家出して北極探検に行きました。そ して帰ってきたら英国は大変狭く感じ再び北極に行きま した。そのように北極には2回行きましたが、帰ってき て大学に行ってもつまらなかったので、今度は探検家に なろうとカナダに行きました。17歳の時でした。しか し、探検家になるには弱かったらダメだと思い、その時 空手を習いに日本に来たのです。日本に来て最初の2年 半は、大都会に住んでいましたが、自然が無く、おかし く感じました。しかし田舎や山に行くと、世界一の戦艦 を造った技術の国の日本に熊がいました。また、猪は英 国では滅びてしまいましたが、日本には沢山いました。 それで日本が大好きになりました。又日本の空手道場で は、いじめなどはありませんでした。

エチオピアでは、国立公園をつくりましたが、周囲の

森は切られ、だんだん荒れていきました。自然が悪く なれば、治安も悪くなる。そのようなことで再び日本 に帰ってきました。

日本の山を歩いて、山菜を食べ、又治安も良く、私はますます日本が好きになりました。そして日本は、言論の自由、宗教の自由、旅の自由があります。2年後、再びカナダに行きましたがやっぱり日本が恋しくなり、日本に戻りました。ちょうど日本はバブル期で、自然を削りゴルフ場が増えていました。私は、山を知るために猟友会に入りました。日本人と山歩きをしましたが、日本人はせっかちで早すぎます。登るときは周囲の自然に目がいかず、ただひたすら登り、頂上について万歳を叫びさっさと下りてしまう。

私は山で熊を4頭捕ったが、このことは森が豊富で あることだと知りました。翌年1人で、熊の写真を撮 るために山に登りましたが、熊はいませんでした。お まけに山の木々が切られていたのです。このように自 然が失われていく光景を見て私は、森づくりのために 長野県黒姫に荒れた森を買いました。森の中の環境は、 人間に大変良い影響を与えます。温度が低く、葉っぱ 一枚一枚がクーラーです。酸素を作るし、空気をきれ いにしてくれる。だから都会にも緑を増やすことです。 日本は列島で長いからいろいろな多様性があります。 世界一の国を造れる可能性があります。カナダでは、 温暖化の影響でキクイムシが増え、立ち枯れの木が増 えています。このまま放置すると火災などの原因にな ります。日本でも立ち枯れの森が増え放置されていま す。なぜ放置しているのか、手入れをしないのか。出 来ないことはない。出来ることはやるべきです。日本 の未来は、森や川、田んぼなど自然の再生保護にかか っています。日本の自然はたくましいから、放置する と暴れます。手入れをするときれいになり、保水力も 増し、人に安らぎを与えます。最初私が日本に来たと き、日本は子供の天国だと思いました。その時は川で 子供が遊んでいました。しかし今日、子供は外で遊ば なくなりました。又治安も悪くなりました。更に子供 への虐待も多くなり、施設の7割は虐待を受けた子供 たちです。このような施設の子供が自然の中に出ると 明るい子供に変わります。そのために森で遊べるよう に健康的で安心な国をつくりましょう。そのようにな ると日本人は豊になります。また、省エネにもなるの

どうも、へたな日本語でごめんなさい。日本で義務 教育を受けなかったものですから。」

(おわり)

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

北アルプス・槍ヶ岳写真展と版画展 好評のうちに終了

7月8日~22日の15日間、北九州市小倉北区のリバーウオーク4階「アート&エコスペース」で開催した 徳刈貞雄・康治親子の北アルプス・槍ヶ岳写真展と日本 山岳会会員伊藤久次郎版画展は、RKB-TV、朝日新 聞、毎日新聞の報道のおかげで、県内外から多数の方々 が来場されました。さらに、西日本地区では初めての公 開という事もあって登山や写真愛好家のあいだでも話題 を集めたようです。

結果は、入場者1,383名でした。開催中、長時間、会場に詰めていただいた会員の方、日本山岳会北九州支部の方は34名にのぼりました。その中の1人は「写真展盛況でした。雑誌や本で見るのとは違って迫力がありました。そして、伊藤久次郎さんの版画、初めて知りビックリです。地元にこんな人がおられるとは。もっと沢山の作品を見たいものです」。来場者からは、「テレビを見て福岡から来た。来たかいがあった感激です」「これからも、もっと沢山の作品を集めて開催して欲しい」等など。(九州と信州の会「九州と信州」の記事から)

藤田傳さん FM放送に生出演

去る7月25日(水) サロンの日、午後7時過ぎサロンが始まって間もなく、参加した当支部会員の藤田傳さん(80歳)が突然「今からFM放送(FMKITAQ)に生出演してくる」と出かけて行きました。やがて放送が始まり、山の話や南極の話などを約1時間、サロンの会場にもラジオが持ち込まれ、傳さんの生放送に聞き入りながらのサロンでした。

続いて、8月25日(土)、またもやFM放送の「リアルネットワークKITAQ」の番組に生出演しました。

この番組は、「頑張る高齢化先端都市」というテーマで、北九州をもっと元気に、もっと暮らしやすい街にするためにはどうしたらいいかを語るトーク番組で、その締めくくりとして80代で元気なマイライフを楽しんでいる藤田傳さん以下3人のゲストに、人生体験や元気な秘密等を井戸端会議風に語り、傳さんは、山のよさや楽しさをアピールし、日本山岳会の名を大いに宣伝しました。

門司大里南市民センターの門司山歩会近況

No.13465 大楠益弘

既に報告したように、主として門司地区の当支部の皆 さんに支援してもらい、昨年10月をもって、同センタ ーの登山教室を終了した。

4月に入り、受講生有志によって、同センターの同好会として「門司山歩会」が結成された。現在会員数は16名である。会長、事務局長、委員は互選。月例山行を

実施することになった。私の立場は支部派遣の講師であるが、しばらくの間はリーダーも兼務することになった。

4月は、淡島神社経由風師山、5月、貫山(リーダー西村氏夫妻)、6月、福智山、7月、藤松コースで戸ノ上山であった。これまで1人の脱落者、怪我もなく順調である。会員は、登山講座で話したことを良く覚えてくれている。暑さにもかかわらず、すべて長袖を身に着けてくれている。短い休憩のときは、立ったままであり、その後の行動も素早い。当支部でも徹底しているとは言えないが、地図の読図、コンパスの使い方にも強い関心を持つ会員が多い。もっともいまだ初歩段階なので、地図はその都度配布している。

7月に藤松コースの沢を詰め、尾根に入ったところで、ある会員が右上肢のけいれんを起こし歩行が困難となった。不覚ながら私は梅干しを所持しておらず困ったが、すぐさまかたわらの会員がザックの中から握り飯を取り出し、梅干しを提供してくれた。マッサージもしたが、梅干しの効能もあって、間もなく歩行可能となった。山の仲間の心意気に胸を打たれるシーンであった。

なお一層の会員の質のグレードアップと会の活動の充 実へと歩を進めてゆきたい。

協力金制度がスタート 久住分かれのトイレ

(法華院 EXPRESS vol. 066 09/15から)

今月からいよいよ久住分かれのトイレの協力金制度 がスタートします。ワイズユース検討委員会で1年以 上かけて検討してきた事の第一弾です。季節によって 掃除頻度は違いますが、おおよそ週一ぐらいで委託さ れた業者さんが清掃に上がっておりました。その経費 を軽減し、また登山道の整備の資金獲得を目的に協力 金を戴くことにいたしました。自然は豊富でもお金の ない大分県です、ああこんなところでもお金を取るの かと思わずに、1回の使用につき、100円の協力金に 是非ご協力下さい。基本的には登山する前に運び出し が容易な麓で、排便はすませ山に入る啓蒙も含まれて おります。それでも、途中で体調が悪くなり、やむお えずトイレを利用する事があるでしょう。そのときに トイレの個室で、ここにこの施設があったことを感謝 していただきたいのです。そしてこの施設の建設や維 持管理にどれだけの費用がかかるかと思いをはせて下 さい。決して高い金額ではないと思います。宜しくお 願いします。

また10月の13日はくじゅうに感謝する日として、 九重連山で大規模な清掃・整備活動が行われます。い つも利用させていただき何かしら得した気分にさせて くれるくじゅうの山々に感謝の気持ちを表す日です。 法華院では、鳴子川の清掃活動を担当します。少雨決行で大船林道ゲートから坊がつるまで川周辺のゴミ拾いをします。各団体で作業内容が変わりますので、詳しくは大分県のHPをご覧になって下さい。ボランティアですので、手弁当でご参加下さい。また、午後3時をめどに、どの団体も麓に下りつく予定です。1年以上かけて会議を重ねてきたことが実行に移されようとしています。期待と不安でいっぱいですが、感謝を合言葉に頑張りたいと思います。是非ご参加下さい。新しいマップも配布される予定です。

熊本支部創立 50 周年記念式典のご案内

- 1. 期日 平成19年11月17日(土)~18日(日)
- 2. 場所 熊本市交通センターホテル・小岱山 (玉名市、荒尾市)
- 3. 日程 11月17日(土) 熊本交通センターホテル
 - $\bigcirc 14:00\sim15:00$
 - 15:00~15:30 記念式典
 - 15:30~17:00 記念講演 講師 日本山岳会関西支部長

重廣恒夫氏

- 18:00~20:00 祝賀会11月18日(日)記念登山「小岱山」(501m) 熊本市には2時半~3時までに帰ります。
- 4. 参加費 12,000円 (全経費を含む)
- 5. 参加申込 10月5日まで。

関口興洋 (093-382-6436又は090-8919-6776) 参加者には、追って詳細な計画、振替用紙が熊本 支部より送付されます

2007自然保護全国集会のご案内

日時:平成19年11月17日(土)~18日(日)

場所:富士五湖(レイクホテル西湖) 日程:第1日 支部報告、グループ討議

議題(1)高山植物(2)山のトイレ

(3)登山道 (4)適正利用

シンポジウム、懇親会

第2日 フィールドスタデイ (三ツ峠他) 費用:1泊=12,500円、2泊=20,000円

申込:9月25日(事務局まで)

年次晩餐会でイベント企画の参加募集(本部)

日本山岳会総務委員会では、2007年度の年次晩餐会(12月1日)の開催に伴い、各支部、同好会、同期会、委員会に対し、会場での催し物を募集している。これはそれぞれの持ち味を生かした宣伝を兼ね、例えば展示物(支部、同好会、委員会自慢・宣伝)・フリーマーケット・図書販売などと題したコーナーを設けるもの。

なお、出展にあたり

- ○会員個人の出展ではなく、あくまでも各支部、同好会、同期会、委員会を通じての出品に限る。
- ○出展料は不要。
- ○出展希望の申込は、申込用紙にて本年10月 15日までとする。

などの決まりがある。もし該当希望があれば、10月 10日頃までに支部事務局(関口)まで。

会員異動

支部新会員

北九413 萩 尾 常 利 八幡西区







(最近の新聞などから抜粋)

山の遭難者 中高年が8割 昨年過去最多

中高年の登山ブームが続く中で、昨年中の山岳遭難発生件数は、1,417件と過去最多となったことが、警察庁のまとめで分かった。遭難者も1,853人で過去最多。このうち40歳以上の中高年が約81%を占めた。

遭難の発生件数は、前年より35件、遭難者数は169人増加。死者・行方不明者も278人で、5人増えた。遭難の状況別では「道迷い」が1位、2位が「滑落」、3位が「転倒」の順。

(6月30日、東京新聞 TOKYO Web)

絵筆で百名山制覇 80歳、20年かけ油彩に

福岡県田川市本町の山岳愛好家中山利彦さん(80)が、「日本百名山」の全山を20年がかりで油彩画に描いた。百名山すべてに登頂した人は少なくないが、絵筆による "制覇"は珍しい。約70の山に登った10年程前に腰を痛め百名山登頂を断念したが、その後も現地を訪れてはスケッチを重ね、今年5月下旬、百番目の宮之浦岳を訪れ、全山を描きあげた。来年1月には同市美術館で「百名山」の絵画展を開く予定。

(7月18日 西日本新聞)

富士登山者にポケットガイド

静岡県は、富士山登山を安全に楽しんでもらおうと、外国語もまじえた登山者向けのポケットガイド「富士山へ登る人のために」を作成した。各登山道の説明や山小屋、トイレの情報、救護センターなどの緊急連絡先など登山に必要な情報を網羅している。A6版24ページで各登山口の山小屋や観光案内所などで無料配布する。 (7月19日 東京新聞 TOKYO Web)

(8月15日 東京新聞 TOKYO Web)

2007年

前回に続いて、大庭支部長も 西日本新聞が紹介

2007年8月15日 北九州・京築版

21 北九州版



h(

(若松区和田町) Щ

く山肌、太陽の光を反射

たら…」。山の魅力は「え に輝く雪山の美しさとい

の合宿をするうち、いつ いう。高校生から始め 高校の生物部の恒例行事

間にか山登りの方が目的 槍ケ岳に登り始めた。 の日本アルプス、穂高岳や 大学に入ると中部地方

山から帆柱山、皿倉山方面 縦走するのが 上通っている。地元では **層南区の南境にある福智**

に登山した人の話を聞きた ネットの情報でなく、実際 半歩く。「山と良い付き合 たリュックを背負い一時間 い方がいらっしゃいます」 いつでも山に登れるよ 毎日四きの重りを入れ 一本やインター (同区紺屋町) 物産の情報を

ゅう」が加わり、現在は2002年に更新された二代目「やまび

山岳遭難者ら長野県警へり救助が1000人に 県警が運用するヘリコプターが救助した山岳遭難者らの人数

が、8月13日現在で1000人に達した。県警は、1981年に

県警へリ「やまびこ」を導入。89年には、県警へリ「しんし

こ」を二機で救助活動に当たっている。

「尾瀬国立公園」が誕生 29番目の指定

日光国立公園から、高層湿原の自然で知られる尾瀬地域が分 離、独立した「尾瀬国立公園」が30日に誕生した。新たな国 立公園の指定は20年ぶりで、全国で29番目。群馬、福島、 新潟、栃木の4県にまたがり、新たに会津駒ヶ岳地域、田代山 ・帝釈山地域を編入し、総面積は約3万7千%。

(8月31日 西日本新聞)

福智山バイオトイレ人気 利用者1万人に迫る

福岡県の筑豊地区と北九州地区にまたがる福智山 (901m) 山頂近 くに、微生物を使って汚物を分解する「バイオトイレ」が設置さ れたのは昨年11月。登山者に好評で、早くも1万人を突破する勢 いだ。「女性や子供にも親しまれる山にしたい」との願いを込め、 地元の「筑豊山の会」が寄付を募り設置した。

トイレは、洋式便器の下に木のチップが入ったステンレス製の便 槽を備える。使用のたびにドラムが回転して便槽内部をかくはん し、チップ内の微生物の働きで汚物を浄化する仕組み。においが 少なく、くみ取りも不要という利点がある。しかし、維持管理に は苦労もあり、ドラムを回転させたり、内部を微生物に最適な3 5度に保ったりする動力源は電気のため、発電機の燃料補給と定 期運転が欠かせず、会員が10日に一度は山に登っている。

(9月19日 西日本新聞)

大崩山登山情報

本年8月2日の台風4号が宮崎の大崩山頂上付近を通過したた め、湧塚ルートの湧塚橋(鉄橋)や祝子川徒渉点の大石はほとん どが流失している模様。又、上祝子登山口200m先町道に架かる 橋(3号橋)も流され、二枚ダキ方面は通行不可。登山者は事前 に北川町総合支所(電話0982-46-5010)へお問い合わせを。

(H.P九州一の原生林大崩山から)

祖母山登山情報

紅葉

すでに紅葉が一部色付いている。

登山道

尾平~古祖母山へは登山不可。尾平トンネルまでは歩いても難 しい。縦走の方は注意。エスケープルートとして使えないので、 傾山来る方は祖母まで。祖母山から傾山へ行く方は、途中で下り られないので覚悟が必要。九折コースは傾山までいける。

(9月23日、祖母山九合目小屋の最新情報から)

山行計画のご案内

10月の山行

阿蘇高岳とキャンプ(10/13~14)

日程: 2007年10月13日(土)~14日(日)

目的地:阿蘇山

宿泊方法:テント泊(鍋の平キャンプ場)

交通:自家用車(適宜分乗)

行程:10/13日(土)15:00 鍋の平キャンプ場集合、

設営

10/14日(日) キャンプ場〜日の尾峠〜高岳〜中岳 〜キャンプ場〜高森温泉館

費用: 概算2500円(キャンプ場使用料、テント持込料、

夕食分、朝食分、乾杯用ビール充当)。

交通費は車ごとに清算。

14日の昼食は各自用意のこと。

入浴:高森温泉館(入浴料400円) 申し込み期限:10月9日(火)まで

申し込み先:関口まで(III/FAX:093-382-6436)

なお、参加者が確定した段階でテント他炊事道具など共

同装備、食材につき打ち合わせを行う。

11月の山行

第23回宮崎ウェストン祭と 記念登山ほか(11/2~4)

今回は、北海道支部も参加して、宮崎支部との交流登 山も計画されています。

日程

第1日(11月2日・金)

☆ウェストン祭前夜祭

☆公民館に於ける交流会

第2日(11月3日・土)

☆第23回宮崎ウェストン祭

☆記念登山・祖母山

第3日(11月4日・日)

☆北海道支部と宮崎支部の交流登山・霧島縦走

☆北海道支部と宮崎支部との交流会

サロン ルーム

毎月第4水曜日

毎回盛況!

10月のサロンは、24日(水) 11月のサロンは、28日(水)

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

(なお、この参加申込はすでに〆切り済みで、北九州支部 は第2日の記念登山まで参加して、宮崎支部や北海道支部 会員との交流を深める事にしている)

12月の山行

年次晩餐会(12/1)とプレ山行 プレ山行は丹沢あるいは天城山

今年の年次晩餐会は、12月1日(土)東京と決まりましたが、北九州支部が行うプレ山行は、丹沢あるいは天城山を予定しております。

日程は晩餐会の前後を予定しています。参加希望者 は早めに事務局まで連絡下さい。

申込先 関口まで (正/孫):093-382-6436)

支部忘年登山(12/8~9) 九重法華院温泉泊

日程 2007年12月8日(土)~9日(日)

12/8(土) 九重登山後、坊ガつるの法華院温泉 山荘で忘年会 (泊)

12/9(日) 朝食後自由行動。現地解散。

会費 10,000円 (宿泊代込み)

参加申込 事務局 (関口) まで

編集後記

○ 今回は余白がふえましたので、その穴埋めのため何か思いつくま

まを書きました。

○まず近況、私Qは、9月10日から約1週間、調子が 悪くなった心臓の修理のためドック入り、第3回目のカ テーテル手術をし、3本目のステント(パイプ)を入れ 込みました。そのため、北九だよりの製作が遅れまして 申し訳ありません。これで当分は生きられそうですので、 1カ月後位から山登りを始めようと思います。

○真っ昼間、この暑い中で編集作業をしている途中で、 資料問い合わせのため他の仲間に電話しましたところ、 昼寝の真っ最中だったり、山に行って留守だったりして、 「他の人はいいな~」と思いました。

○話変わって、我が支部ものんきにしているわけには いきません。トップ紙面でご案内の通り、来年の全国 支部懇談会が、全国最後の審判で我が支部に決まった のです。会員全員の協力が必要です。

○更に続いて、あと2年後は、支部創立10周年を迎えます。その時何をするのか、記念誌(史)を発行するのか、その準備を早急に始める必要があります。

Q

○ 山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、

アドレス rw4ux6@bma. biglobe. ne. jp です。 デジカメ写真は、縮小せず添付で送ってください。